



第364号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

思い出はくじのように

ふとした時

「三歩歩くと忘れる」

ではないけれど、少し前にしようとしていたことも忘れてしまう困った記憶。何かを取りに部屋を出ただけれど、部屋を出た頃には忘れ、どうして思い出せない。後で思い出したらまた行こうと思うと、部屋に戻った途端にスイッチを押したように思い出す。衰えたからなのか、それとも元からこんなものだったのかすら思い出せないような拙い記憶力に振り回

されながら日々を過ごしているような気がします。そのくせ昔のことはそんなに印象的なわけでもない些細なことを覚えていくもの。友人とのくだらないやり取りや、何気ない風景の一部など、覚えていなくても支障のないようなことばかりですが、些細なことだからこそもちよつとした思い出話として笑って楽しめるのかもしれない。脳は不要と判断した情

春の風のいたずら 日差しが柔らかくなり、道端の木々に淡い新芽が覗き始めると、「もうすぐ春かな」と思う。コートを軽めのものに替え、マフラーを外し、歩く足取りも自然と軽くなる。空の青さもどこかやわらぎ、日差しが頬に心地よく当たると、冬の終わりを感ずるのだ。けれど

春を前に

残をまとった風。春だと思ったのに、とつい文句をこぼしたくなるけれど、この風はきつと、冬と春

のせめぎ合いなのだろう。三寒四温の言葉通り、暖かな日があれば、まだまだ冷える日もある。そうして、ゆつくりと春は芽吹いていく。手放したはずのマフラーを再び巻き、そつと肩をすくめながら、それでもやはり春が来ることを楽しみに前を向いた。



報は忘れ、必要な情報を保護しているそうですが、それほど重要そうではない思い出がふとした時に蘇るのは、自分にとって何らかの理由で重要と判断されたからなのでしょう。そう考えると、突然降ってきたように思い出す、ちよつとしたできごとさえも大事な思い出に感じられるような。数年後、数十年後まで

脳が持つていききたいと思つた記憶や思い出は、大事に心の片隅にしまつておきたいものです。今の自分にとつては大事なできごとではなくても、将来何かの役に立つことではなくても、いつかちよつとだけ笑顔になれる、そんな程度の些細で大事な思い出。次の「ふとした時」にどんな思い出が出てくるか、そんなくじを引くように記憶を楽しむのもいいかもしれません。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務局同封下まで流し交わります。宛封下まで流し交わります。



次回発送日

3月の次回発送日は17日、31日の予定です。送りたいお手紙がある場合はそれぞれ14日、28日までに事務局に到着することを近隣の郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。

感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて頂き、方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報伏せした上でご紹介させて頂きます。ご要望等もお気軽にお送りください。

